

【今週の注目疾患】

《麻しん（はしか）》

2026年第5週に県内医療機関から1例の届出があり、本年の累計は2例となった。この1例の年齢は30代で、麻しんワクチン接種歴はなく、推定感染地域は国内であった。

全国においても、2023年以降は国外における流行に伴い、海外からの輸入症例が増加している一方で、海外渡航歴のない症例も報告されていることから¹⁻³⁾、本年も引き続き発生動向に注意が必要である。

県民のみなさまへ⁴⁾

第5週に発生届があり、他の人に麻しんを感染させてしまう可能性がある期間（感染可能期間）に、不特定多数の方が利用する公共交通機関等を利用していったことが判明したので、県では注意喚起のために報道発表を行いました。

これらの施設等と同じ時間帯に利用された方は、利用した日から21日以内（特に10日前後）は健康状態にご注意いただき、発熱・せき・鼻水・眼球結膜の充血・発しん等の症状がある場合は、事前に保健所に連絡の上、指示に従って医療機関を受診してください。受診の際は、周囲へ感染を広げないよう、マスクを着用し、公共交通機関等の利用を避けてください。

■参考・引用

1) 国立健康危機管理研究機構：麻疹 発生動向調査

<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/diseases/measles/graph/index.html>

2) 国立健康危機管理研究機構：麻疹の発生に関するリスクアセスメント(2025年第一版)

https://id-info.jihs.go.jp/risk-assessment/measles/measles_ra_2025_1.pdf

3) 厚生労働省：麻しんについて

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou_kekkaku-kansenshou/measles/index.html

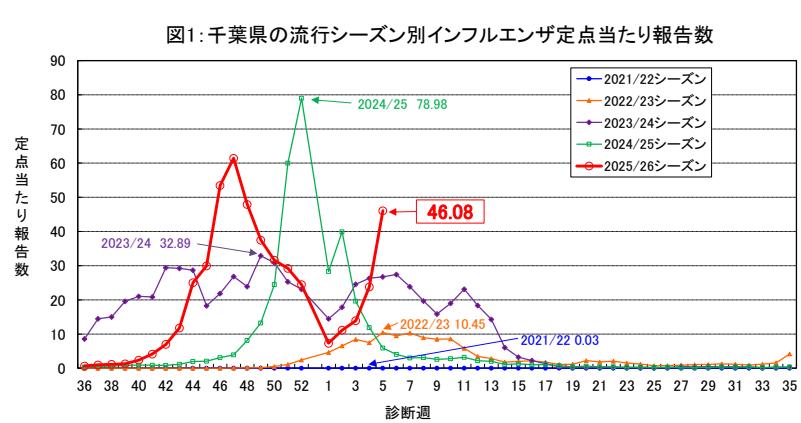
4) 千葉県健康福祉部疾病対策課：麻しん（はしか）患者の発生について（令和8年1月30日）

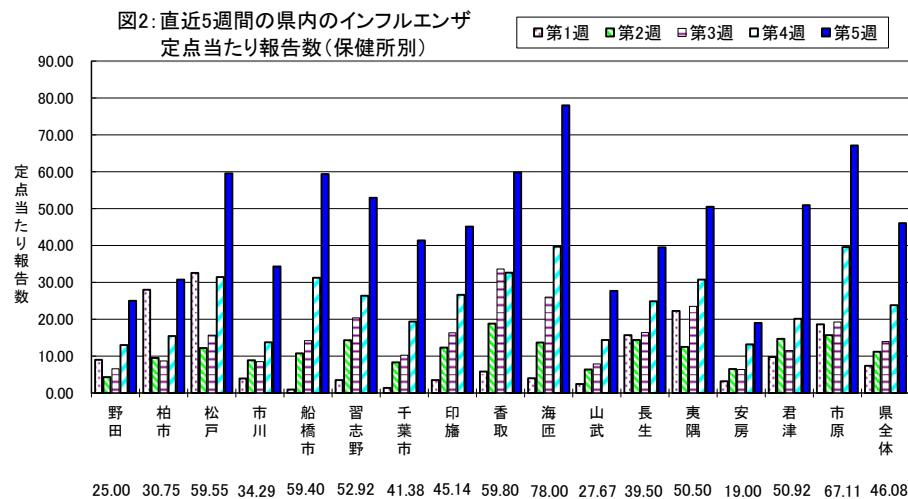
<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/press/2025/260130measle.html>

《インフルエンザ》

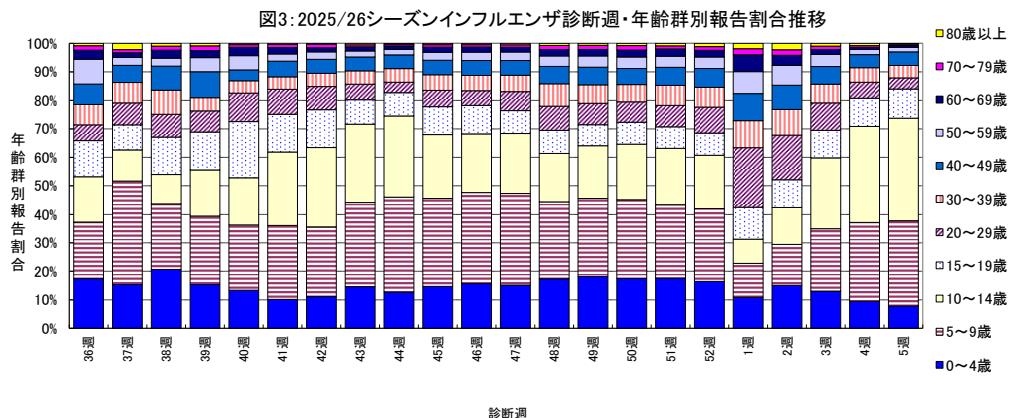
インフルエンザの予防のため、手洗いや咳エチケットの励行に努めましょう。

2026年第5週における定点当たり報告数は、46.08(人)となった（図1）。県内16保健所管内の全てで前週より増加し、特に、海匝（78.00）、市原（67.11）、香取（59.80）保健所管内が多かった（図2）。報告数が増加し続けており、引き続き注意が必要である。





第5週の報告数8,433例のうち、年齢群別では、10代が3,895例（内訳は、10～14歳が3,032例、15～19歳が863例、合わせて46.2%）と最も多く、次いで10歳未満3,186例（37.8%）、40代406例（4.8%）と続いた（図3）。



より重症な症例数の推移を反映する県内9か所の基幹定点医療機関からの入院患者報告数は、31例（前週16例）であった（うち10歳未満13例、80歳以上6例）。

また、定点医療機関の任意の協力により集計している迅速診断の結果では、7,458例中6,661例(89.3%)がB型であった（図4）。2025/26シーズン（2025年第36週から2026年第35週までの期間）当初はA型が多かったが、2026年第3週にB型がA型を上回って以降、B型の占める割合が更に増加している。

